



岩 中 通 信

第6号

令和4年9月28日

体育祭を振り返って・・・

校長 木村 博

9/10(土)に体育祭を終え、14日(水)・15日(木)の昼休みと放課後に、体育祭を引っ張ってくれたリーダーの皆さんと校長室で対談形式の話をする機会を得ました。体育祭スローガンは「必笑～咲き誇れ 両軍の smile～」、そして2学期に学校全体で目指すのは「主体的」な姿。この2つを「体育祭の活動の中で一番達成していたなあ」と感じたのが、リーダーの皆さんでした。どのような気持ちで臨んでいたのか、終わってみてどう感じているのか、何を得たのか……。がんばりを讃えるとともに、皆さんの生の声を聞いてみたかったです。内容をいくつか紹介します。



校長：生徒が主役のすばらしい体育祭、本当によかった。率直な感想は？

「達成感がすごいです。」

「人前に立つことがあまり好きではなかったけど、得意になれた。自信が持てた。」

「みんながすごく笑顔で楽しんでいたんで、勝てなかったけどそれだけですごうれしかったです。」

「今までリーダーをしたことがなかったけど、大変なこともあったが、達成感やうれしいことをたくさん味わえて、やって良かったと思いました。」

「マスコットの原画を書いて、それを大きくするのは難しいなと諦める部分もあるかと思っていたけど、みんなが期待に応じてくれて一緒にがんばってくれたので、みんながいてくれて良かったと思いました。」

「どういう説明の仕方がいいかな、と分からなくなることが多く、プレッシャーを感じることも多かったけど、最終的には、応援リーダー全員と話し合っ、当日は練習よりも声を出したりして優勝できて良かった。」



校長：リーダーってこういうことを大事にしなくてはいけないと感じたことは？

「上から目線ではダメだ、ということ。あいさつとかでも上から目線では誰もついてきてくれない。同じ目線で話さないといけないと分かった。」

「一つ一つに感謝した方がよい。課題ばかりを言っても聞いている方はいい気持ちにはなれない。まずはいい点を言って感謝を伝えるようにした。」

「最初の集まりでまとまらなくて、声も通らなく、指示をするのも大変だった。応援団がみんな話してこうしようと決めていったら上手いくようになった。リーダーは、一人ではなくみんなががんばっていくものだと思う。」

「小道具を作っている途中でどうしようと迷って、他の人と相談すると自分で考えるよりスムーズにいくようになった。」

「ボスではなくリーダーになること。ボスは指示する、リーダーは指示をしながら一緒にやって高め合っていくイメージ。」

「一人だけの指示では通らない。みんなの意識が同じ方向にいかないと通らない。」

「リーダーはどんなときも笑顔でいることが大事だと思う。」

校長：素敵で貴重な経験から得たことをこれからどう生かしていきたい？

「生徒会などでは、発言が少なかったんで、これからは、自分から進んで話をしていきたい。」

「よいところから話して、注意したいことは同じ目線をお願いしていきたい。」

「リーダーについていく立場になったら、今度はリーダーを助けてあげたい。」

「高校生になったときに、今回の経験を生かして何かのリーダーやサポートなどをいっぱいしていきたいです。」

「体育祭に向かってがんばった気持ちを勉強に向けられたらいい。」

「人前で話したりするのが苦手だったのでリーダーとかやってこなかったけど、今回やってみて、みんな協力してくれてうれしかったし楽しかった。これからもリーダーとかをやる機会があったらやってみたい。」

体育祭の活動の中で、各自の成長を感じさせる場面が見られました。全体に向かって話をする姿や内容、リーダー同士の意思の疎通、出てくる課題に対応する考え方や行動力…。「みんなが笑顔で終われる体育祭にしたい」という共通の願いは、その達成に向かうための主体性を生み、一人一人の成長につながったのだと思います。対談の中で見せる笑顔や思いを伝える姿勢、「自信がついた」と言う晴れやかな顔、それらすべてが、夏休み前の皆さんの様子とは明らかに違っていました。リーダーとなって自分自身と向き合ったこと、周りの仲間から学んだこと、協力してやり遂げることで学べたこと…。それらはすべて、これからの学校生活のみならず、社会に出て生きて働く力となるはずで。リーダーだけでなく全校生徒それぞれが体育祭で得たことを学校全体の力に変え、これからも成長し続けていきましょう。成長のための2学期のミッションは、「主体的」に取り組むことです！

「全国学力・学習状況調査」の結果について

4月19日（火）に3年生で「全国学力・学習状況調査」が実施され、その結果が届きました。このテストは、文部科学省が全国の小学6年生、中学3年生全員を対象として実施するもので、今年度は、国語・数学・理科の学力テストと生徒質問紙調査が行われました。

当校の3教科の平均正答率は、全国に比べて低い結果でした。特に、どの教科においても、記述式の問題形式の正答率が低い結果となっています。また、「生徒質問紙」調査において、全国と比べて顕著なものとして次のような点があげられます。

【好ましいと考えられる項目】

- ・毎日同じくらいの時刻に寝ていますか、同じくらいの時刻に起きていますか
肯定的評価；就寝 94.3%（全国平均 79.9%） 起床 97.1%（全国平均 92.2%）
- ・地域の大人との関わり、地域の行事への参加
肯定的評価；関わり 40%（全国平均 21.1%） 行事 71.4%（全国平均 40%）
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
肯定的評価；71.5%（全国平均 66.6%）

【課題と考えられる項目】

- ・学校の授業時間以外の、1日あたりの勉強時間
平日 2時間以上 8.6%（全国では、35.2%の生徒が学習している）
休日 3時間以上 5.7%（全国では、20.6%の生徒が学習している）
- ・スマートフォンやパソコン等の使い方で、家の人と約束したことを守っているか
きちんと守っている 20%（全国では 32.2%の生徒がきちんと守っている）
家の人との約束はない 28.6%（全国では 18.2%の生徒がないと答えている）
- ・1日（平日）どのくらいゲームをしますか
2時間以上 68.6%（全国では、50.3%の生徒が2時間以上と答えている）
- ・1日（平日）どのくらいスマートフォン等でSNSや動画の視聴をしますか
2時間以上 71.4%（全国では、52%の生徒が2時間以上と答えている）
- ・将来の夢や目標を持っていますか
肯定的評価；51.4%（全国平均；67.3%）

この結果を受け、当校では、以下の取組をとおして学力向上につなげていきます。

- ・終学活時に「プランニングタイム」を設定して、帰宅後の学習時間やメディアコントロールを意識して生活できるように支援する。
- ・村上市の授業づくりのポイントに沿った「学習課題」「まとめ」「振り返り」のある授業を行う。また、自分の考えを持ち、表現する力を身につけられるように、根拠を明確にした意見交流を行う対話的活動を多くの学習や活動に取り入れる。
- ・5教科を中心に宿題としてデジタルドリルを積極的に活用できるように指導する。

－わたしの主張－「村上・岩船地区大会」 は紙上発表で開催

8月18日（木）に開催予定でした「わたしの主張－村上・岩船地区大会」は、8月に発生した豪雨災害に配慮して、紙上発表で行われました。岩船中学校を代表して参加した渡邊楓夕さんは、奨励賞となりました。夏休み中も発表の練習をしていましたが、残念ながら直接訴えかける主張発表の機会はありませんでした。素晴らしい主張文を皆さんに紹介します。

私たちが気づけたことは…

岩船中学校 三年 渡邊 楓夕

皆さんは、「新型コロナウイルス」について、どのような思いをもっていますか。そして、その思いをどのような形で自分に納得させているのでしょうか。

「新型コロナウイルス」という言葉を、初めてニュースなどで耳にするようになったのは、今から約二年半前のこととなります。私たちが小学六年生の三学期のことでした。最初のうちは、何が何だか分からない状況でしたが、そのうち二月には国内でこのウイルス感染による死者が出て、二月末には全国全ての小中学校に対して臨時休校という措置がとられました。小学校での生活が残り少なくなる中、突然の臨時休校という事態に、とても不安な気持ちになったことを思い出します。

この二年半、私たちの周りにはいつも、新型コロナウイルスがありました。そこで皆さん、このコロナウイルスが流行する前のことを思い出してみてください。そこには、今では考えられないような生活がありました。マスクなしで大声で話し、顔を寄せ合って笑っていた毎日。向かい合って食べる給食。誰に遠慮することなく家族と遠くまで出かけられた旅行。学校の行事だって何の制約もなくのびのびとしていたあの頃。

しかし、コロナウイルスが流行してから、私たちの生活は一変しました。マスクを外せない毎日。みんなで黙って食べる給食。周りの目を気にしてしまう旅行。学校の行事も縮小されることが多く、実際、私たちの修学旅行も、東京へ行く予定が県内旅行へと変更を余儀なくされました。新型コロナウイルスは数えきれないほど多くのものを、私たちから奪っていきました。そんなことを考えると、大人も子どもも高齢者も、どんな人も皆、新型コロナウイルスに対する嫌悪や恨みに似た感情があって当然なのかもしれません。

でもここで、ちょっと視点を変えて考えてみたいのです。コロナウイルスと共に生きたこの二年半は、全世界の人類にとって不幸で無意味なだけの時間だったのでしょいか。また、コロナウイルスが私たちに与えたものは、本当に全てが全てマイナスのことだけだったのでしょいか。いえ、もしかしたら、新型コロナウイルスは、私たちにたいせつな「何か」を教えてくれたのではないでしょいか。

振り返ってみると、私たちはコロナウイルスが流行する前まで、「幸せの基準」がとても高かったのだと思います。マスクなしの生活も、向かい合って会話しながら食べるご飯も、お祭りや行事でにぎやかに盛り上がることも、本当は当たり前なんかじゃなくて、とても幸せなことだったのだと、今あらためて感じています。今まで当たり前だと思っていた日々は、実は当たり前ではなく、全部「幸せ」だったのではないでしょいか。ただ、私たちはそれに気づかなかっただけです。そして、こうして「幸せ」に気づくことができたのは、コロナウイルスのおかげだとは考えられないでしょいか。

私は、もしもコロナウイルスの流行がなかったら、全部を「これが普通」と受け止め、ずっと当たり前をはき違えたままだったことでしょう。そして、何かに「感謝する」ということに気づくことができず、自分の周りのさまざまなものごとに対して不満ばかりを口にしていたように思います。私にとってコロナウイルスは、何事も「当たり前」と思わず、日常のひとつひとつに感謝していこうというきっかけをくれました。

修学旅行にしても、東京に行けなかったから不幸なのではありません。行き先がどこであろうと、仲間たちや先生方と一緒に楽しく旅行に行けたということそのものが、とても幸せなことであり、感謝すべきことなのです。今はそんなふうに受け止めることができるようになりました。

私がこのような考え方ができるようになったのは、コロナウイルスのおかげです。今まで私たちが気づくことができなかった日々の幸せを教えてくれたコロナウイルス。ウイルスとのつき合いは、この先まだまだ長くなるかもしれませんが、感染予防もしっかり続けながら、その中で日々の幸せをかみしめたいと思っています。

村上市中学生広島平和記念式典派遣事業に参加しました

今年度の派遣事業に、岩船中学校を代表して生徒会長の 熊倉 素晴さんが参加してきました。10/15(土)のオープンスクールの際に、被爆地・広島での貴重な学びについて、全校生徒に発表することにしています。今回は写真で広島での様子を紹介します。



出発前後には、市長さんへ表敬訪問。



広島到着後は、原爆ドームを見学し、「原爆の子の像」に市内の中学生全員で作った千羽鶴を奉納。



平和記念式典への参加、そして原爆資料館の見学は大きな学びの機会になったそうです。8月の広島は、平和への願い一色になります。貴重な経験を全校生徒にも堂々と伝えて欲しいと思います。

10月の主な予定

- 10/3(月) 全校朝会
- 10/3(月)～7(金) 小中合同あいさつ運動
- 10/5(水) フッ化物洗口 預り金引落日
- 10/7(金) 生徒会専門委員会(放課後)
- 10/12(水) フッ化物洗口
- 10/13(木) 生徒会朝会 6年生体験入学(PM)
スクールカウンセラー勤務日(AM)
- 10/14(金) 3年実力テスト
2年救命救急講習(PM)
- 10/15(土) オープンスクール
※午後は、合奏・生徒会発表



- 10/18(火) 岩船大祭宵宮(給食後、下校)
- 10/19(水) 岩船大祭
- 10/20(木) 15日の振替休業日
- 10/24(月)～テストウィークⅣ
- 10/26(水) フッ化物洗口
- 10/27(木) 1年村上市内研修
スクールカウンセラー勤務日(PM)
- 10/31(月) 1年歯科保健指導(PM)

【お知らせ】

- ① 10/1から、自転車を利用する場合は「自転車損害賠償責任保険」等への加入が義務化されます。岩船中は自転車通学がありませんが、自転車に乗る場合はご確認ください。
- ② 10/3～7の「あいさつ運動」にぜひご協力ください！地域へも回覧で呼びかけをしました。